

農作業用機械～牧場の強力なサポーターたち

宗谷管内豊富町の上福永(かみふくなが)地区では、道営草地畜産基盤整備事業(公共牧場整備)を実施しています。公共牧場とは、自治体や農協が主体となって経営し、預託料をとって牛馬を預かり、放牧する牧場のことです。豊富町上福永地区の公共牧場は、酪農家から多数の牛の預託を受けます。このため、飼料である牧草の刈り取り、調整作業を一定期間に行い、良質な粗飼料を大量に確保する必要があります。少数の職員で広大な牧場全体を管理するためには、高性能の機械の力を借りて作業能率の向上を図る必要があります。北海道の広大な牧場では、ヨーロッパの酪農大国で製作された大型で強力な農作業用機械を利用することが多いです。ここでは、H26年度に上福永地区に導入された機械3種類をご紹介します。



①モアコンディショナーという機械です。モア(刈り取り部)とコンディショナー(圧砕部)から成り立っています。オーストリアのポッティンガー社製です。



②機械下部前方に取り付けられている刈り取り刃。倒伏した草や背の高い密集した草でもきれいに刈り取ります。刈り取った草は後方に送られます。



③②で刈り取られた草を圧砕する後部。中央部分にV字型の棘のようなものが見えます。流れてきた牧草をここで均一な配列と本数にまとめる役割を果たします。



④最後部の緑色の台から、刈り取った草を拡散させて、素早く天日に当てて乾燥を促進します。短時間で乾燥させれば、その後の攪拌作業の回数を少なくすることができます。



⑤これはヘイレーキという機械です。地干した牧草を集める機能があります。写真は装備を折りたたんで搬送されてきた状態です。



⑥牧草地ではローターと呼ばれる装備を横に上げた状態で動きます。3本のタイヤに支えられているローターを横回転させて集草します。



⑦ローターを上から見た写真。フォークの先端のように見える「ホイール」で効率よく草をかき集めていきます。このヘイレーキはオランダのビコン社製です。



⑧四輪の乗用トラクターです。これでモアコンディショナーやヘイレーキをけん引するとともに、機械を駆動する動力源ともなります。オランダのニューホランド社製です。